



Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 79 号

・発行日 / 2009 年 9 月 3 日

・事務局 / 〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2 - 7 - 63 - 1001 草野計雄方

・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994

・発行所 / クリスチャンパートナーズ

・Tel / Fax 054-283-9317

・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp

・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/

「上から出た知恵」

(新約聖書 ヤコブの手紙 3 章 1 節 ~ 1 8 節)

理事長 木ノ内 一雄

知識は私たちの頭に蓄えられた様々な情報ですが、知恵はそのような知識を活用する力と言えるのではないのでしょうか。聖書では二つの知恵があると言います。一つは「この世の知恵」であり、もう一つは「上から出た知恵」です。「この世の知恵」は私たちが学校や書物、また自らの人生や社会経験から身につけるものです。それに対し「上から出た知恵」は教会に行き、聖書を読み、主イエスを知ることによって身につけるものです。「この世の知恵」と「上から出た知恵」とは一致する場合もありますが、一致しない場合も多くあります。たとえば、新約聖書コリントの信徒への手紙一 1 章に「十字架につけられたキリストは...ユダヤ人にはつまずかせるもの、異邦人には愚かなものですが、...召された者には、神の力、神の知恵である...」と書かれているとおりです。

8 月は敗戦の月です。日清戦争 (1894 年) 日露戦争 (1904 年) 韓国併合 (1910 年) 満州事変 (1931 年) 「満州国」建国 (1932 年) 太平洋戦争 (1941 年) と隣国への侵略と戦争が続きました。天皇は現人神として礼拝され、日本は神国でした。しかし、本土は空襲に見舞われ、広島、長崎に原爆を落とされ敗戦となりました。「この世の知恵」では、大陸での利権や石油資源の確保は欠かせないものであったでしょう。富国強兵こそ日本の生きる道でした。しかし、「上から出た知恵」はこのような考え方に反対します。神以外のものを神とすること、人を殺すこと、また嘘をついたり、略奪行為などはしてはならないことです。

先日来日された PI シンガポールのジェームズ・ライ師は、私たちが支援しているインドネシアのカリマンタン地域だけでなく、メコン川流域に住む貧しい子供たちへの学費援助の必要性をも力説されました。スライドを見ながら彼の説明を聞く時、子供たちの置かれた状況に心が痛みました。

戦争によってアジア諸国に多大な迷惑をかけた私たちは、そのような過ちを二度と繰り返さないということだけでなく、いろいろな国の人たちと共に働くことによって、平和をこの世に築いていかなければならないと思うのです。

ジェームズ・ライ師夫妻歓迎会



後列左から：宮澤、竹澤、奈須 (監事) 鳥海、草野、岩崎各理事

前列左から：木ノ内理事、ライ夫妻、木ノ内理事長

初来日されたシンガポール PI 代表ジェームズ・ライ師夫妻を歓迎して、国際会議で旧知の草野・竹澤・木ノ内和美理事が、日本紹介のプログラムを組みまし

竹澤三佳子（理事）

昨秋国際会議でお会いしたライ師から夫人とともに日本を訪問したいとの御希望を伺い、4月13～20日をどのように過ごしていただくかといろいろ考え、準備しました。成田には木ノ内・草野理事がお迎えに行き、翌日は「はとバス外国語ツアー」で東京タワーなど市内の名所を巡り、夜は横浜中華街まで足を延ばしました。

15日はライ師は理事との懇談などで、私は夫人の買い物の案内をしました。理事会の歓迎晩餐会の後、父草野と私はライ夫妻を静岡の我が家にお連れしました。お二人は外国滞在に慣れていて、違和感なく馴染む術を身につけておられましたし、夫人は洗濯や料理に積極的に参加してくださり、私たちは普段通りの生活をすることができました。16日は久能山でのイチゴ狩り・東照宮観光でしたが、富士山は春霞で見えませんでした。夫人は緑茶が気に入って、入れ方をお教えするとすぐお茶を買い、道具を100円ショップでお求めになりました。私のつたない英語でも、相手が何を伝えたいのかと想像を広げていくと、自然と頷き合うところまで達することを経験しました。17日の夕方、川越駅で木ノ内夫妻にお二人をお任せし、お別れの握手をして静岡に戻りました。

木ノ内和美（理事）

ライ師とは国際会議で何回もお会いしたことがありレイチェル夫人ともイギリスでの会議以来二年振りの再会でした。17日の夕食は私たち夫婦と四人でいただきました。夫とは初対面でしたが、ざっくばらんのお人柄ですぐに打ち解け、パートナーズの働き、家族のことなど話題は事欠かず、昔からの友人のようでした。

（木ノ内理事長は川越教会牧師。ライ師夫妻は牧師館に宿泊された。編集者注）

川越教会員との懇談

18日は私が都内大久保までお送りし、かつてマレーシアの教会員で現在中国教会の牧師をしておられる方のご案内で教会を訪問され、夜お二人だけで川越に戻られました。

19日の聖日は川越教会の礼拝に出席なさいました。教会学校の分級では、ミャンマーで養育者がいない子供たちのために、パートナーズがキリスト教主義のホームを建設し、その施設で彼らが生き生きと生活している様子を、パワーポイントを使って話してくださいました。礼拝後の自己紹介の中でご自分がどのようにして信仰者になり、献身なさったかをお話くださいました。その後、一階の集会室でお昼をご一緒し、教会員と和やかに歓談されました。そして、シンガポールパートナーズの多岐にわたる活動の様子を、映像を通して説明してくださいました。それから川越の町をご案内しましたが、伝統文化を残す町並みや菓子屋横丁がとても気に入った様子でした。

あっと言う間の川越滞在でしたが、教会学校の子供たちや教会員の方々とも交わりの時を持てたことは何よりでした。クリスチャン パートナーズはカリマンタンの里子支援ではシンガポール事務所と密接な協力関係にあるので、その責任を担うライ師夫妻と親交を深められ、実り多い三日間でした。



後列：レイチェル夫人、竹澤理事、竹澤朋子さん
前列：ライ師、草野理事、草野夫人



川越の町を散策するライ夫妻

木ノ内夫妻が支援しておられた神学生マルティヌス
兄がめでたく卒業され、新しい仕事に就かれました。
以下はマルティヌス兄のご挨拶です。



2009年6月10日

日本においでの木ノ内一雄、和美様
クリスチャンパートナーズの皆様

卒業式のマルティヌス兄

主イエス・キリストのお恵みとご加護を受け、私は2009年2月21日
に無事に神学校を卒21日に無事に卒業することができました。

「神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益と
なるように共に働くということを、わたしたちは知っています。」(ローマの信徒への手紙 8:28)

木ノ内一雄夫妻と、クリスチャン パートナーズの皆様に、今まで私を学費の援助とお祈りで支えてく
ださいましたことへの感謝の気持ちを、この手紙でお伝えしたいと思います。そのお陰で、私の目標であ
った神学校を卒業することができました。皆様のご好意に、神さまのお恵みが注がれますように、お祈
りさせていただきます。本当にありがとうございました。機会が与えられましたら、何かの形で皆様に
恩返しさせていただきたいと思っております。

現在私は、YPPI 西カリマンタン支部での3年間の義務奉仕で働いています。この奉仕に就く前、私
は東ジャワで行なわれた「国際福音伝道促進」プログラムの研修に、2ヵ月半参加しました。神学校で教
鞭をとりたいという希望を持っていますが、そのためには修士号を取得しなければなりません。神様の
お許しがあれば、この9月から大学院で勉強を続けたいと考えています。

私が、神様から与えられた道、奉仕に誇りをもって勤められますように、伝道の主イエス・キリスト
のみ言葉によって救われる者が増えますように、どうか祈ってください。

もう一つご報告したいことは、神学校の教授をしているウィニタと、7月6日に婚約式をあげるこ
とになりました。

神様のお導きによって、私に愛情あふれる心優しい木ノ内御夫妻とクリスチャン パートナーズの皆様
との出会いが与えられたことを神様に感謝申し上げます。神様のお恵みとご加護がいつも私達の上にあ
りますようにお祈りいたします。

愛と祈りと共に、マルティヌス

高橋めぐみ宣教師が送ってくださった、私達が支援しているキリスト教主義学校の先生方の近影



インマヌエル中学校
スパディ校長

スンガイダウン小学校
サピナ校長

スンガイダウン小学校の職員の方々の皆さん
(この方々の給与の支援もしています)

(宮澤理事が、昨春神学校でお会いしました)

2002年から里子7名の支援を続けてくださっている山梨県甲府市にある

ニューライフインターナショナルチャーチを訪問して

竹澤三佳子（理事）

甲府市内の山梨英和大学の講堂で、毎週土曜日の夕方から礼拝を守っているこの教会を、6月27～28日、お訪ねしました。6年前から礼拝献金で、クリスチャンパートナーズの里子7名の支援を継続していただいているからです。指導なさるD.W.ブラウン牧師は山梨英和大学で英語教育に携わりながら、英語と日本語で伝道活動をなさっている方です。

以前、草野前理事長もブラウン牧師を訪ね、温かい歓迎を受けました。今回は多忙な生活にも拘わらず、私を自宅に泊めて下さり、教会の成り立ち、信仰、日本での暮らし、家族のことなど沢山の話題について熱心にユーモアを交えて語られ、初めて伺ったのにすぐに打ち解けて家族のように時間を忘れてお話しできました。

ブラウン牧師一家は日本での生活が長く、外国人も多く在住する環境の中で、流暢な日本語で会話し、礼拝では日本語通訳と共に、国籍を超えた深い交わりでみ言葉を取り次いでおられます。礼拝は最初から最後まで包み込まれた温かさが漂い、クリスチャンパートナーズの里子たちのためにも祈りがありました。

ブラウン牧師は、「教会に来る人たちはみんな家族です」とはっきり言われました。奥様のスージーさんはとても明るくチャームングな方で、自宅を清潔に整えて泊まりにきたい人を、いつでも受け入れる寛大な方でした。そのお二人から伝わる愛の輪は、家族、教会の方々へと、これからも広がり続けていくことでしょう。



ブラウン牧師夫妻

【理事会報告】第157回理事会は2009年6月15日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2009年3・4・5月会計報告承認。「通信」第78号は4月10日発行。里親 里子異動報告、現在51名。ガーナプロジェクトは現地との連絡が困難。リーフレット改訂版作成は延期し、現在のものを修正して印刷する。ジェームス・ライ夫妻歓迎行事支出は12万円余。ロバン村教会の敷地購入は支障が起きて中断。9月にカナダで開催のCEO会議には木ノ内理事長出席の予定。「通信」第79号発行は決算予算が入るので、次回理事会の後になる。内容はライ夫妻訪問、マルティヌス神学生卒業など。

第158回理事会は2009年8月24日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2009年6・7月度会計報告承認。2008年度決算・2009年度予算承認。「通信」第79号は送付済みの原案を承認。8月30日発行予定。第80号の内容は理事長のCEO会議報告他。理事長は9月25日カナダへ出発予定、会議はヴィクトリアで28～30日開催。ガーナとの連絡はいまだに不調。リーフレットの内容更新、印刷出来上がり。今後の運営について、新しい支援者の開拓、若い会員への協力要請などが話し合われた。

第159回理事会は2009年10月19日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 残暑お見舞い申し上げます。ライ師夫妻の来訪で、シンガポール事務所との絆が強化されました。ロバン村教会の敷地購入について、ライ師から新しい候補地があると伺い、実現に一步近づいたかと期待しましたが、所有者がイスラム教徒で、教会に売ることには周囲の人が反対しているとかで、売買交渉が頓挫してしまったそうです。ささやかながら日本からも支援したいと願っていましたが、難しいことです。

リーフレットを更新いたしましたので、皆様に1部ずつ同封いたします。もっと御入用の方はお申し出ください。

クリスチャンパートナーズにとっては、また新しい年度が始まりました。今年度も御支援のほど願ひ上げます。振込用紙を同封させていただきます。

台風の季節、くれぐれもお大事に。

鳥海百合子